令和元年度名誉総裁表彰式典

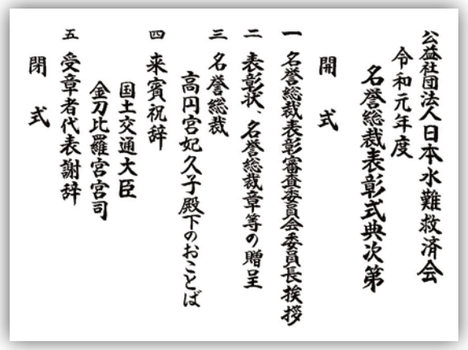
おことばを述べられる 名誉総裁 高円宮妃久子殿下

名誉総裁表彰式典が開催され、名誉総裁 高円宮妃久子殿下から海難救助に功績のあった個人2名と本会の事業に功績のあった個人2名に対して表彰状等が授与されました。

令和元年6月11日、東京都千代田区平河町の海運ビルにおいて、本会名誉総裁 高円宮妃久子殿下ご台臨のもと、来賓として石井啓一国土交通大臣及び岩並秀一海上保安庁長官並びに本会の発祥の地、讃岐、金刀比羅宮の権宮司　琴陵泰裕氏をお招きし、「令和元年度名誉総裁表彰式典」を盛大かつ厳かに執り行いました。

表彰式典では、名誉総裁表彰を受章された個人4名に対して、名誉総裁 高円宮妃久子殿下から直接、表彰状（又は感謝状）と名誉総裁章が授与されました。

式典会場に御入場される 名誉総裁 高円宮妃久子殿下



公益社団法人日本水難救済会
令和元年度
名誉総裁表彰式典次第

開　式
一　名誉総裁表彰審査委員会委員長挨拶
二　表彰状、名誉総裁章等の贈呈
三　名誉総裁
　高円宮妃久子殿下のおことば
四　来賓祝辞
　国土交通大臣
　金刀比羅宮宮司
五　受章者代表謝辞
閉　式

ご来賓の石井啓一国土交通大臣（左）、岩並秀一海上保安庁長官（中央）、金刀比羅宮権宮司 琴陵泰裕氏（右）

名誉総裁表彰式典の開催にあたり挨拶を行う名誉総裁表彰審査委員会委員長（公益社団法人日本水難救済会会長）相原　力

石井啓一国土交通大臣からご祝辞をいただきました。

金刀比羅宮 権宮司 琴陵泰裕氏からご祝辞をいただきました。

名誉総裁 高円宮妃久子殿下から表彰状等を授与される受章者

名誉総裁表彰を受章された方々と関係者の皆様

海難救助表彰を受章した兵庫県水難救済会香住救難所
救助員　藤平　進氏及び協力者　濵本和彦氏から謝辞が述べられました。

式典会場を御退場される 名誉総裁 高円宮妃久子殿下

■ 令和元年度名誉総裁表彰受章者

◇海難救助功労（個人）

兵庫県水難救済会　香住救難所

救助員　藤平（ふじひら）　進（すすむ）氏（漁船第一豊漁丸船長）

協力者　濵本（はまもと）和彦（かずひこ）氏（漁船第一豊漁丸乗組員）

平成30年8月26日午前5時45分頃、兵庫県美方郡所在の余部埼で釣人2名のうち1名が救命胴衣を着用し釣り場を移動中、高さ約2mの磯波にさらわれ海中転落し、同行の釣人が投げいれたルアー(疑似餌)の釣り糸を右手に巻きつけて救助を待った。

海上保安署から救助要請を受けた香住救難所は、付近海域で操業中の2名乗り組みの救助船第一豊漁丸に出動依頼し、同救助船は直ちに現場に急行した。

現場海域は暗礁や岩礁が点在し、風速14mの南西の風、高さ1.5mの波と台風20号の影響による、うねりも加わり時々大きな磯波が打ち寄せて海中転落者が岩礁等に打ちつけられるおそれがあり、また、現場海域に出動した大型の巡視艇が激しい風浪により暗礁に乗り上げるおそれがあり接近困難な中、救助員（船長）は喫水の浅い救助船を巧みな操船により陸岸に接近させ、乗組員（協力者）が救助員の指示により、漁業に使用する「アバ（浮子）」にロープを組み合わせて海中転落者に向けて投げたところ、海中転落者がそれを掴んだことから救助船まで引き寄せて船内に収容、無事救助されました。

海中転落現場にて救助活動を行う救助船(漁船)第一豊漁丸

名誉総裁 高円宮妃久子殿下から表彰状を授与される
香住救難所　救助員　藤平　進氏

名誉総裁 高円宮妃久子殿下から名誉総裁章を授与される
協力者　濵本和彦氏

◇事業功労（個人：青い羽根募金）

遠藤（えんどう）　潔（きよし）氏

創設以来、沿岸海域における人命・財産の救助において歴史と実績がある本会が運営する水難救済事業の崇高さと重要性を認識するとともに、「青い羽根募金」の趣旨に感銘を受け、個人の社会貢献活動と考え、平成26年5月15日から平成30年8月15日までの間、本会に対し「青い羽根募金」として多額の寄附をされました。

名誉総裁 高円宮妃久子殿下から感謝状を授与される遠藤　潔氏

◇事業功労（個人：業務精励）

公益社団法人　北海道海難防止・水難救済センター
前理事長　山田 邦雄 氏

名誉総裁表彰を受章された山田邦雄氏

社団法人北海道漁船海難防止センターと社団法人日本水難救済会北海道支部との組織統合に向けた困難な改革を推進して、平成11年8月に新たな組織として社団法人北海道漁船海難防止・水難救済センターを設立させた後、同センターの副理事長に就任、その後、平成13年6月には理事長に就任し、水難救済事業の発展に大きく貢献するとともに、公益法人化に向けた組織改革を積極的に推進し、平成24年4月、社団法人から公益社団法人北海道海難防止・水難救済センターへの移行を成し遂げた。

また、平成13年6月から平成30年6月まで、洋上救急センター道南地方支部の支部長として17年間にわたり洋上救急の円滑な事業推進の中心的な役割を果たすなど、約20年の長きにわたり北海道における水難救済事業と洋上救急事業の推進に尽力した。

更に、平成13年10月から現在まで約18年にわたり日本水難救済会の理事として、日本水難救済会及び全国の水難救済会の発展に寄与されました。

受章されました山田邦雄氏は、式典当日、病気療養中により、ご本人に代わり、公益社団法人北海道海難防止・水難救済センター笹野専務理事に表彰式典にご出席頂きました。

なお、残念ではありますが、山田邦雄氏は、令和元年6月17日にご逝去されました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

名誉総裁表彰式典の後、名誉総裁や来賓の皆様等とご懇談いたしました。

懇談会の冒頭、名誉総裁表彰を受章された方々等を紹介いたしました。

懇談会開催にあたり挨拶を行う公益社団法人日本水難救済会会長　相原　力

岩並秀一海上保安庁長官からご挨拶と乾杯のご発声を頂きました。

本会の理事で日本漁船保険組合会長の三宅哲夫氏より中締めのご発声を頂きました。

ご懇談の後、会場を御退室される
名誉総裁 高円宮妃久子殿下